（１）　いね科牧草

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
1 アブラムシ類	1.過繁茂を防ぎ、通風、採光に努める。 2.窒素過多に注意する。 3.発生を認めた場合は、できるだけ薬剤を散布しないで早めに刈り取るように努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.放牧の場合は使用時期の日数を経過した後に放牧する。	発生初期	1B 4A 4A 4A	スミチオン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤
2 アワヨトウ	1.雑草を除去し、早期発見に努める。 2.発生を認めた場合は、できるだけ薬剤を散布しないで早めに刈り取るように努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.雑草の繁茂している圃場に発生しやすい。 2.放牧の場合は使用時期の日数を経過した後に放牧する。	発生初期	1B	スミチオン乳剤

（２）　まめ科牧草

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
1 アブラムシ類	1.過繁茂を防ぎ、通風、採光に努める。 2.窒素過多に注意する。 3.発生を認めた場合は、できるだけ薬剤を散布しないで早めに刈り取るように努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.放牧の場合は使用時期の日数を経過した後に放牧する。	発生初期	1B 4A	スミチオン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤
2 ハスモンヨトウ	1.雑草を除去し、早期発見に努める。 2.発生を認めた場合は早めに刈り取る。			

（３）　飼料用とうもろこし

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Fusarium avenaceum* *Penicillium* sp. ピシウム苗立枯病 *Pythium sylvaticum* *P. debaryanum* *P. ultimum* var. *ultimum* *P. spinosum* *P. paroecandrum*		播種前 （種子塗沫）	M3	キヒゲンＲ－２フロアブル
2 アブラムシ類	1.過繁茂を防ぎ、通風、採光に努める。 2.窒素過多に注意する。 3.発生を認めた場合は、できるだけ薬剤を散布しないで早めに刈り取るように努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.放牧の場合は使用時期の日数を経過した後に放牧する。	発生初期	1B 4A	スミチオン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

飼料用とうもろこし

3 タマナヤガ	1.作付け前に圃場内の除草を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.雑草の繁茂している圃場に発生しやすい。 2.放牧の場合は使用時期の日数を経過した後に放牧する。 3.飼料用とうもろこしは子実用と青刈用があり総使用回数はともに2回である。	発生初期	1B	ダイアジノン粒剤5
4 ツマジロクサヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.薬剤による防除が困難な場合、収穫が可能であれば直ちに収穫・調整を行う。 3.刈取り後は、土の上に落ちた幼虫や土中のさなぎを駆除するため、速やかに耕うんする。 4. 直ちに収穫が困難な場合は、被害の拡大や虫の分散等を防止するため、速やかにすき込みを実施する。	発生初期	14 11A 11A 11A	パダンSG水溶剤 ジャックポット顆粒水和剤 チューレックス顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤